

日時： 2022 年 7 月 19 日（火）18 時～20 時
会場： Zoom によるオンライン会議
出席者： 山野博哉，波利井佐紀，栗原晴子，井龍康文，中野義勝，木村匡（以上理事），野中正法，宮本育昌（以上監事），久保田賢（事務局），浅海竜司，熊谷直樹，鈴木倫太郎，長田智史，樋口富彦，深見裕伸，目崎拓真，渡邊敦，山下洋（オブザーバー）

議題（案）

報告事項

(1) 業務報告

1. 学会誌（資料 1）

資料に基づき、雑誌編集の実施状況、編集委員の交代ならびに今後の活動方針や課題について報告された。

今後の課題において、インパクトファクター（IF）の取得や和文誌の冊子体の廃止の検討の見通しについて質問があり、これらについて出席者からの意見に基づき議論された。

IF について、深見編集委員長と副編集長との検討では、IF の取得はかなり困難なので諦め、その代わりに気軽に投稿してもらえるよう、短報の投稿を求めるなどの工夫をしたいとのことであった。また、井龍理事から生物分類のように他の雑誌への掲載が困難な分野に絞る戦略もあるという提案がなされた。

和文誌の冊子体継続については、モニタリング事例等が掲載される場合があり行政向けには有益かもしれない、学会全体の収支や会員の権利（定款細則別表 1 各種会員の会費と権利）を合わせて検討すべきといった継続が必要とする一方で、他の学会やその他の多くの場面において紙媒体で発行していたものを電子媒体に変更する例が多いため、冊子体の発行を取りやめても特に問題ない可能性もあるという反対のコメントもあったことから、これらについて学会戦略委員会で検討することとなった。

また、英文誌についても少部数だけ印刷・配布していて割高であるということから、同様な議論があり、冊子体を配布している賛助会員や団体会員の意向を尋ねることとなった。

2. 広報・社会連携（資料 2，資料 3）

資料に基づき、委員会の開催、ニュースレターの発行と準備、ホームページの作成・更新、一般からの問い合わせへの対応、広報用の Twitter の開設についての検討、Web の WordPress アップデート作業、教育関係コンテンツの作成、小中高校生ポスター発表の実施と、今後の

活性化に関する議論，保全・教育普及奨励賞の公募，保全・教育普及奨励賞等の活動の報告ならびに今後の活動方針や課題について報告された。

WordPress アップデート作業については，第 25 回大会の申し込みから実施までの期間を避ける目的で，2021/22 年度と 2022/23 年度の 2 期に分けて作業すること，予算に基づいて執行することが併せて報告された。

Twitter アカウトについて開設後に凍結されてしまったという報告に対して，共同管理する際には TweetDeck を用いる方がいいという助言があった。

3. 学会戦略・国際連携（資料 4－資料 6）

大会の講演要旨を日英両言語で記載する件について，第 24 回大会で問題点が挙げられていることから，それを踏まえて再検討後，8 月 22 日の情報公開までに最終版を作成することとなった。このテンプレートは事務局が大会情報サイトへアップロードする予定である。

国際連携委員会の報告については，資料に従い渡邊敦委員長から委員会構成や開催状況が報告された。過年度の台湾からの問い合わせに対する対応状況に対する質問に対しては，台湾在住の野澤さんに調整をお願いするところまで議論を進めているが，これまでに大きな進展はないという回答が得られた。

木村匡理事からの情報として，ブレーメンで開催された ICRS で Andréa G. Grottoli 会長と話をしたところ，Regional chapter に関しては必ずしも APCRS と JCRS の間で調整が図られていなくても，それぞれが立候補してくれてもいいというスタンスに代わっていたことが紹介された。ただ，会長が近いうちが変わるので方針が再度変更されることになる可能性もあり，注視することとなった。

4. サンゴ礁保全・調査安全（資料 7，資料 8）

資料に基づき，サンゴ礁保全学術委員会については，沖縄県からの意見紹介への対応，自由集会の開催，2021 年度日本サンゴ礁学会 保全・教育普及奨励賞の授賞，「日本産イシサンゴ目の標準和名の提唱と使用のガイドライン」の策定と公開，2021/22 年度日本サンゴ礁学会 保全・教育普及奨励賞の募集および今後の予定について，調査安全委員会については，情報収集，HP の改定に関する委員会での検討や安全管理に関する情報収集について報告された。

5. 庶務・会計

1) 大会準備状況

木村匡理事より，今年度初めはハイブリッドでの開催を想定し，オンライン担当を決めていたが，石垣市民会館の内部の Wi-fi 環境が不十分であることから，急遽オンサイトのみの開催となったという現在までの準備状況の概要について紹介された。

大会実行委員会との情報共有のために作成された大会 Web 情報のテストサイトを使用し、久保田賢事務局長より当日までのスケジュールを中心に準備状況が説明された。

栗原理事より、教育・普及啓発委員会では、一定数の地元の小中高生が参加することが見込まれていることや石垣まで来ることができない小中高生もいることから、ポケット Wi-fi によりネット接続し、ポスター発表をオンラインで開催することも検討していることが説明された。ポスター発表ならばネット接続が可能かどうかは、現地の接続状況を確認し、再度検討することとなった。

7月19日時点の新型コロナウイルス感染対策状況では300名まで会場に入れる状況になっているが、コロナウイルスが再拡大しているため、NL（原稿締切済）に人数制限の可能性があると一文を追加することとなった。

大会実行委員会より、6月に逝去した大森名誉会員に関する企画の検討の可否に関する問い合わせがあった。一部の会員から、関東で開催予定の第26回で実施した方が、参加者が多く見込まれるという意見があることも紹介され、継続して検討することとなった。

(2) その他

審議事項

(1) 日本サンゴ礁学会第25回大会の開催について（庶務・会計）（資料9）

当日受付の手続きを簡便化するため Air レジサービスを利用し、領収書を印刷するためポータブルレシートプリンターの購入が提案され、承認された。

(2) sangoML の変更について（庶務・会計）

2022年2月頃に会員より sangoML のメールが届かないこと、その会員が所属する大学の情報センターへの情報収集により、sangoML のセキュリティレベルの問題である可能性が指摘された。本会 Web サイトのセキュリティ対策を目的に WordPress の修正を外注することになっていることから、可能であれば追加料金を支払い、本件のコンサルティングを依頼したいという提案があり、承認された。

(3) 沖縄県サンゴ礁保全推進協議会の会長及び理事の選挙について

当該協議会の理事等の改選にあたり、改選前と同様に学会として山野博哉会長が立候補することが提案され、承認された。

(4) その他

本会に問い合わせがあったものの未対応案件となっている「ひび建て式養殖について」および「NHK 沖縄放送局からのサンゴ移植についての取材」について対応が協議され、ともにサンゴ礁保全学術委員会が対応することとなった。

気候変動適応広域協議会よりサンゴ礁保全行動計画とともにサンゴ礁学会に協力を求められている案件について、サンゴ礁保全学術委員会が関与しつつ、学会戦略委員会が中心となって進めることとなった。